

単元のねらい	観点別評価		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近な物理現象を日常生活や社会と関連付けながら、光と音、力の働きを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 身近な物理現象について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働き、音の性質、力の働きの規則性や関係性を見い出して表現する。 身近な物理現象に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。	身近な物理現象を日常生活や社会と関連付けながら、光と音、力の働きを理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	身近な物理現象について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働き、音の性質、力の働きの規則性や関係性を見い出して表現している。	身近な物理現象に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

章のねらい	観点別評価		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・光の反射や屈折の実験を行い、光が水やガラスなどの物質の境界面で反射、屈折するときの規則性を見いだして理解する。その際に、光の屈折では全反射が起こることを見いだして理解し、入射角と屈折角の定性的な関係を知る。また、白色光はプリズムなどによっていろいろな色の光に分かれることについて知る。 ・凸レンズの働きについての実験を行い、物体の位置と実像や虚像のでき方との関係を見いだして理解する。	・光に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、光の反射や屈折、凸レンズの働きについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	・光について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働きの規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	・光に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

時数	項目 ＜項の目標＞	観察・実験	観点別評価			
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	主体的に学習に取り組む態度
1 光の進み方ともの見え方 ◆1分野（1）ア（ア）㉔、イ	＜光が進む様子を観察し、光が直進することや光源から出た光が目にくくことで見えることを見いだして理解する＞	規 準 ペーパーテスト A基準 B基準	・空中中、水中、ガラスの中などを光が直進すること、もの見え方について理解している。	・光が進む様子を見通しをもって観察し、光が直進することや、光源から出た光が目にくくことでものが見えることを見いだして表現している。	★光が進むときの事象・現象について進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	行動観察、質問紙
			・光が直進することともの見え方を関連付けながら説明している。	・光が進む様子を見通しをもって観察し、複数の例から光が直進することや光が目にくくことでものが見えることを見いだし、根拠を示しながら適切に表現している。	・身の回りで見られる光の現象から、光が直進することやもの見え方について、自ら進んで関わり主体的に説明しようとしている。	
			・光が直進することや、もの見え方を説明している。	・光が進む様子を観察し、光が直進することや光が目にくくことでものが見えることを見いだして表現している。	・教科書にある例から、光が直進することやもの見え方について説明しようとしている。	
2 光の反射 ◆1分野（1）ア（ア）㉔、イ	＜光の反射の実験を行い、光が水やガラスなどの物質の境界面で反射するときの規則性を見いだして理解する＞	規 準 ワークシート、レポート、ペーパーテスト A基準 B基準	★光が反射するときの規則性について理解している。 ★入射角と反射角を調べる技能や、入射光と反射光の道筋と像の位置を作図する技能を身に付けている。	★光の反射について問題を見いだして課題を設定し、光の反射の実験を見通しをもって行い、光の反射の規則性を見いだして表現している。 ★鏡に映った像の位置を、反射の法則と光の直進性から考察して表現している。	・光の反射に関する事象・現象について進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	行動観察、ワークシート、レポート
			・日常生活での例をあげながら、光の反射の規則性を説明している。 ・実験の課題を理解し、入射角と反射角の大きさを適切な方法で調べ、反射の法則をもとに入射光と反射光の道筋と像の位置を正しく作図している。	・光の反射について自ら問題を見いだして課題を設定し、光の反射の実験を見通しをもって行い、複数の実験結果から入射角と反射角が等しいことを見いだし、根拠を示しながら適切に表現している。	・光の反射について自ら問題を見いだして課題を設定し、見通しをもって進んで実験を行い、光の反射の規則性について主体的に課題を解決しようとしている。	
			・光が反射するときの規則性を説明している。 ・教科書の記述に沿って、入射角と反射角の大きさを調べ、入射光と反射光の道筋と像の位置を作図している。	・光の反射について問題を見だし、光の反射の実験を行い、実験結果から入射角と反射角が等しいことを見いだして表現している。	・光の反射について問題を見いだして課題を設定し、実験を行い、光の反射の規則性を調べようとしている。	
3 光の屈折 ◆1分野（1）ア（ア）㉔、イ	＜光の屈折の実験を行い、光が水やガラスなどの物質の境界面で屈折するときの規則性を見いだして理解する＞	規 準 行動観察、ワークシート、レポート、ペーパーテスト A基準 B基準	★光が屈折するときの規則性や全反射について理解している。 ★入射角と屈折角を調べる技能や、入射光と屈折光の道筋を作図する技能を身に付けている。	★光の屈折の実験を見通しをもって行い、光の屈折の規則性を見いだして表現している。	・光の屈折に関する事象・現象について進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	行動観察、ワークシート、レポート
			・日常生活での例をあげながら、光が屈折するときの規則性を説明している。 ・実験の課題を理解し、入射角と屈折角の大きさを適切な方法で調べ、入射光と屈折光の道筋を正しく作図している。	・光の屈折の実験を見通しをもって行い、複数の実験結果から入射角と屈折角の規則性を見だし、根拠を示しながら適切に表現している。	・光の屈折について、自ら課題を設定して、見通しをもって進んで実験を行い、光の屈折の規則性を主体的に調べようとしている。	
			・光が屈折するときの規則性を説明している。 ・教科書の記述に沿って、入射角と屈折角の大きさを調べ、入射光と屈折光の道筋を作図している。	・光の屈折の実験を行い、実験結果から入射角と屈折角の規則性を見いだして表現している。	・光の屈折について、設定した課題に沿って実験を行い、光の屈折の規則性を調べようとしている。	
4 凸レンズのはたらき ◆1分野（1）ア（ア）㉔、イ	＜凸レンズの働きについての実験を行い、物体の位置と像のでき方との関係を見いだして理解する＞	規 準 行動観察、ワークシート、レポート、ペーパーテスト A基準 B基準	★物体の位置と凸レンズによる像のでき方について理解している。 ★凸レンズによる像の規則性を調べる技能や、凸レンズによる像を作図する技能を身に付けている。	・凸レンズによる像をつくる実験を見通しをもって行い、像のでき方の規則性を見いだして表現している。	★凸レンズの働きに関する事象・現象について進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	行動観察、ワークシート、レポート
			・像ができるときの物体と像の位置、像の大きさや向きとの関係を作図をもとに説明している。 ・実験の課題を理解し、光学台を正しく操作してスクリーンに像を結ばせ、像を正しく作図している。	・凸レンズによる像をつくる実験を見通しをもって行い、実験結果から像の位置や大きさ、向きが物体と凸レンズ間の距離によって決まることを見だし、根拠を示しながら適切に表現している。	・凸レンズによる像のでき方について、自ら課題を設定し、見通しをもって進んで実験を行い、像のでき方を主体的に調べようとしている。	
			・像ができるときの物体と像の位置、像の大きさや向きとの関係を説明している。 ・教科書の記述に沿って、スクリーンに像を結ばせ、像を作図している。	・凸レンズによる像をつくる実験を行い、実験結果から像の位置や大きさ、向きが物体と凸レンズ間の距離によって決まることを見いだして表現している。	・凸レンズによる像のでき方について、設定した課題に沿って実験を行い、像のでき方を調べようとしている。	
5 光と色 ◆1分野（1）ア（ア）㉔、イ	＜白色光がプリズムによっていろいろな色の光に分かれることを理解している。★光をいろいろな色の光に分ける技能を身に付けている。＞	規 準 行動観察、ワークシート、レポート、ペーパーテスト A基準 B基準	★白色光がプリズムによっていろいろな色の光に分かれることを理解している。 ★光をいろいろな色の光に分ける技能を身に付けている。	・白色光をプリズムに入射させたときのようすを見通しをもって観察し、光の屈折と白色光がいろいろな色の光に分かれることとの関係性を見いだして表現している。	・光と色に関する事象・現象について進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	行動観察、ワークシート、レポート
			・白色光がいろいろな色の光に分かれることを、光の屈折などの現象と関連付けて説明している。 ・分光シートを使って、いろいろな光源の光を分けている。	・白色光をプリズムに入射させたときのようすを見通しをもって観察し、光の屈折と白色光がいろいろな色の光に分かれることとの関係性を見いだし、根拠を示しながら適切に表現している。	・光と色について、自ら課題を設定し、見通しをもって進んで実験を行い、主体的に調べようとしている。	
			・白色光がいろいろな色の光に分かれることを説明している。 ・分光シートを使って光の色を分けている。	・白色光をプリズムに入射させたときのようすを観察し、白色光がいろいろな色の光に分かれることを見いだして表現している。	・光と色について、設定した課題に沿って実験を行い、調べようとしている。	

方法…評価方法 A基準（十分満足できる。） B基準（おおむね満足できる。） 方法…評価方法 A基準（十分満足できる。） B基準（おおむね満足できる。） ★…重点評価項目

章のねらい	観点別評価		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・音についての実験を行い、音はものが振動することによって生じ空気中などを伝わること及び音の高さや大きさは発音体の振動の仕方に関係することを見いだして理解する。 ・音の伝わる速さについて、空気中を伝わるおよその速さを知る。	音に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、音の性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	音について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、音の性質の規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	音に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

項目 数	＜項の目標＞	観察・実験	観点別評価		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 音の発生と伝わり方 ◆1分野（1）ア （ア）㉔、イ	【やってみよう】 「音がどこを伝わっているか調べてみよう」 〈音がどこを伝わるか調べる実験をし、音はものが振動することによって生じ空気中などを伝わることを見いだして理解するとともに、空気中を伝わる音のおよその速さを知ろう〉	規 準	・音はものの振動によって発生し、空気中などを伝わることを理解している。 ・音がどこを伝わるか調べる技能を身に付けている。	・音がどこを伝わるか調べる実験を見通しをもって行い、音はものが振動することによって生じ、空気中などを伝わることを見いだして表現している。	★音の発生と伝わり方について進んで関わり、見通しをもって振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		方 法	行動観察、ワークシート、レポート、ペーパーテスト	ワークシート、レポート、発表、ペーパーテスト	行動観察、ワークシート、レポート
		A 基 準	・音はものの振動によって発生し、波として固体や液体の中、空気中を伝わることを説明している。 ・さまざまな物体を振動させ、音が物体からどこを伝わって耳に届くが適切な方法で調べている。	・音がどこを伝わるか調べる実験を見通しをもって行い、音はものが振動することによって生じ、空気中だけでなく、固体や液体の中を伝わることを見いだし、根拠を示しながら適切に表現している。	・音の発生と伝わり方について、自ら課題を設定し、見通しをもって進んで実験を行い、主体的に調べようとしている。
		B 基 準	・音がものの振動によって発生し、空気中を伝わることにについて説明している。 ・物体が振動し、音が伝わる様子を調べている。	・音がどこを伝わるか調べる実験を行い、音はものが振動することによって生じ空気中などを伝わることを見いだして表現している。	・音の発生と伝わり方について、設定した課題に沿って実験を行い、調べようとしている。
2 音の大きさや高さ ◆1分野（1）ア （ア）㉔、イ	【実験4】音の大きさや高さ 「弦をはじいたときの音の大きさや高さを調べる」 【やってみよう】 「楽器をつくって演奏してみよう」 〈音についての実験を行い、音の高さや大きさは発音体の振動の仕方に関係することを見いだして理解する〉	規 準	★音の大きさや高さ ★音源の振動の仕方に関係について理解している。 ★弦を用いて、音源の振動と音の大きさや高さの関係を調べる技能を身に付けている。	★音の大きさや高さについて問題を見いだして課題を設定し、音の大きさや高さについて調べる実験を見通しをもって行い、音の大きさや高さの規則性を見いだして表現している。	・音の大きさや高さに関する事象・現象について進んで関わり、見通しをもって振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		方 法	行動観察、ワークシート、レポート、ペーパーテスト	ワークシート、レポート、発表、ペーパーテスト	行動観察、ワークシート、レポート
		A 基 準	・音の大きさと振幅、音の高さと振動数の関係について理解し、音の波形表示を用いて説明している。 ・実験の課題を理解し、弦をはじくときの条件と音の大きさや高さとの関係を適切な方法で調べている。	・音の大きさや高さについて自ら問題を見いだして課題を設定し、音の大きさと高さについて調べる実験を見通しをもって行い、実験結果から音の大きさや高さを決める条件を見いだし、根拠を示しながら適切に表現している。	・音の大きさや高さについて、自ら問題を見いだして課題を設定し、見通しをもって進んで実験を行い、主体的に課題を解決しようとしている。
		B 基 準	・音の大きさと振幅、音の高さと振動数の関係を説明している。 ・教科書の記述に沿って、弦をはじく条件を変えて音の大きさや高さを調べている。	・音の大きさや高さについて問題を見いだして課題を設定し、音の大きさや高さについて調べる実験を行い、実験結果から音の大きさや高さを決める条件を見いだして表現している。	・音の大きさや高さについて、設定した課題に沿って実験を行い、課題を解決しようとしている。

方法…評価方法 A基準（十分満足できる。） B基準（おおむね満足できる。） 方…評価項目 A基準（十分満足できる。） B基準（おおむね満足できる。） ★…重点評価項目

章のねらい	観点別評価		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 物体に力を働かせる実験を行い、物体に力が働くとその物体が変形したり動き始めたり、運動の様子が変わったりすることを見いだして理解するとともに、力ばねに力のかかる大きさや向きによって表されることを知る。また、ばねに加える力の大きさとばねの伸びとの関係について規則性を見いだして理解する。 - 力の単位として「ニュートン」を用いること及び重さと質量との違いについて知る。 - 物体に働く2力についての実験を行い、力が釣り合うときの条件を見いだして理解する。	力の働きに関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、力の働きについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	力の働きについて、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、力の働きの規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	力の働きに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

時数 項目 ＜項の目標＞	観察・実験	観点別評価		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 カのはたらきと種類 ◆1分野（1）ア（イ）㊦、イ 〈物体に力を働かせる実験を行い、物体に力が働くとその物体が変形したり動き始めたり、運動の様子が変わったりすることを見いだして理解する〉	【やってみよう】 「力を探して分類してみよう」	規 準 ・物体に力が働くとその物体が変形したり動き始めたり、運動の様子が変わったりすることや、さまざまな力があることを見出して理解している。	・力の働きを分類する活動を行い、物体に力を加えたときの変化を見いだして表現している。	★力の働きと種類に関する事象・現象について進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		方 法 行動観察、ワークシート、レポート、ペーパーテスト	ワークシート、レポート、発表、ペーパーテスト	行動観察、ワークシート、レポート
		A 基 準 ・具体的に力が働く場面をあげて、物体に力が働いたときに物体が変形したり動き始めたり、運動の様子が変わったりすることや、重力や摩擦などの力の種類などを説明している。	・力の働きを分類する活動を行い、日常生活や教科書のイラストを例にして、物体に力を加えたときの様子から力の働きを見いだし、根拠を示して適切に表現している。	・身のまわりの例から、力の働きと種類について、自ら課題を設定し、見通しをもって進んで力の働きを分類するなど、主体的に説明しようとしている。
		B 基 準 ・物体に力が働いたときに、物体が変形したり運動のようすが変わったりすること、重力や摩擦などの力の種類があることを説明している。	・力の働きを分類する活動を行い、教科書のイラストを例にして、力が働いている例を見いだして表現している。	・教科書にある例から力の働きと種類について、設定した課題に沿って力の働きを分類し、説明しようとしている。
2 力の表し方 ◆1分野（1）ア（イ）㊦、イ 〈力は大きさと向きによって表されること及び力の単位として「ニュートン」を用いることを知る〉	【やってみよう】 「力の大きさを感じてみよう」	規 準 ★力には作用点や大きさ、向きの3つの要素があること、力は矢印で表せることについて理解している。 ★矢印を用い、力を作図する技能を身に付けている。	・力には作用点や大きさ、向きの3つの要素があることを見いだして表現している。	・力の表し方について進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		方 法 行動観察、ワークシート、レポート、ペーパーテスト	ワークシート、レポート、発表、ペーパーテスト	行動観察、ワークシート、レポート
		A 基 準 ・力には作用点や大きさ、向きの3つの要素があること、力は矢印で表せることを理解し、具体的な例をあげて説明している。 ・自ら作用点、矢印の長さ、向きを決めて力を正しく作図している。	・日常生活や教科書の例から、根拠を示しながら力には作用点や大きさ、向きの3つの要素があることを見いだし、適切に表現している。	・力の表し方について、自ら課題を設定し、進んで力の大きさを体感するなど、主体的に説明しようとしている。
		B 基 準 ・力には作用点や大きさ、向きの3つの要素があること、力は矢印で表せることを理解し、説明している。 ・指示された作用点や矢印の長さで、力を作図している。	・教科書の例から、力には作用点や大きさ、向きの3つの要素があることを見いだして表現している。	・力の表し方について、設定した課題に沿って、力の大きさを体感して、説明しようとしている。
3 力の大きさとばねの伸び ◆1分野（1）ア（イ）㊦、イ 〈物体に力を働かせる実験を行い、ばねに加える力の大きさとばねの伸びとの関係について規則性を見いだして理解するとともに、重さと質量との違いについて知る〉	【実験5】力の大きさとばねの伸び 「力の大きさとばねの伸びの関係を調べる」	規 準 ・力の大きさとばねの伸びの関係について理解している。 ・重力と質量の違いについて理解している。 ・ばねに加わる力とばねの伸びを調べる技能や、力の大きさとばねの伸びの関係をグラフで表す技能を身に付けている。	★力の大きさとばねの伸びの関係を調べる実験を見通しをもって立案して行い、力の大きさとばねの伸びの規則性を見いだして表現している。	★力の大きさとばねの伸びに関する事象・現象について進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		方 法 行動観察、ワークシート、レポート、ペーパーテスト	ワークシート、レポート、発表、ペーパーテスト	行動観察、ワークシート、レポート
		A 基 準 ・力の大きさとばねの伸びは比例関係にあることを理解し、具体的な例を示して説明している。 ・実験の課題を理解し、立案した方法に沿って装置を組み、ばねに加わる力とばねの伸びの関係を適切な方法で調べ、目盛りや測定点を正しくプロットして直線のグラフで正確に表している。	・ばねに加わる力の大きさとばねの伸びの関係を調べる実験を見通しをもって立案して行い、実験結果から力の大きさとばねの伸びが比例していることを見いだし、根拠を示しながら適切に表現している。	・力の大きさとばねの伸びの関係について、自ら課題を設定し、見通しをもって進んで実験を立案して行い、主体的に課題を解決しようとしている。
		B 基 準 ・ばねの伸びは加えた力に比例することを理解し、説明している。 ・教科書の記述に沿って、ばねに加わる力とばねの伸びの関係を調べ、実験結果を直線のグラフで表している。	・ばねに加わる力の大きさとばねの伸びの関係を調べる実験を立案して実験を行い、力の大きさとばねの伸びの関係をj見いだして表現している。	・力の大きさとばねの伸びの関係について、設定した課題に沿って実験を行い、課題を解決しようとしている。
4 力のつり合い ◆1分野（1）ア（イ）㊦、イ 〈物体に働く2力についての実験を行い、力が釣り合うときの条件を見いだして理解する〉	【やってみよう】 「つり合っている2つの力の大きさと向きを調べてみよう」	規 準 ★1つの物体に働く2力のつり合いの条件について理解している。 ★2力が釣り合うときの力の大きさや向きの関係を調べる技能を身に付けている。	・物体に2力を加える実験を見通しをもって行い、つり合っている2力の関係性を見いだして表現している。	・2力のつり合いに関する事象・現象について進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		方 法 行動観察、ワークシート、レポート、ペーパーテスト	ワークシート、レポート、発表、ペーパーテスト	行動観察、ワークシート、レポート
		A 基 準 ・2力のつり合いの条件を理解し、さまざまな例について、根拠を示して物体に働く2力が釣り合っているか説明している。 ・実験の課題を理解し、つり合っている2力の大きさや向きの関係を適切な方法で調べている。	・物体に2力を加える実験を見通しをもって行い、複数の実験結果からつり合っている2力の関係性を見いだし、根拠を示しながら適切に表現している。	・2力のつり合いについて、自ら課題を設定し、見通しをもって進んで実験を行い、振り返ったりしながら主体的に調べようとしている。
		B 基 準 ・2力のつり合いの条件を理解し、示された例について、物体に働く2力がつり合っているかどうか説明している。 ・教科書の記述に沿って、2力が釣り合うときの大きさや向きを調べている。	・物体に2力を加える実験を行い、実験結果からつり合っている2力の関係性を見いだして表現している。	・2力のつり合いについて、設定した課題に沿って実験を行い、調べようとしている。

方法…評価方法 A基準（十分満足できる。） B基準（おおむね満足できる。） 方 法…評価方法 A基準（十分満足できる。） B基準（おおむね満足できる。） ★…重点評価項目

ねらい	観点別評価		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・光の反射の法則と鏡に映る像の位置をもとに、身長と全身を映せる鏡の長さの関係性を見いだす。	光に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、光の反射についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	光について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射の規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	光に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

数	項目 ＜項の目標＞	観察・実験	観点別評価例			
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1	全身を映せる鏡 ◆1分野（1）ア （ア）㉞、イ 〈光の反射の法則と鏡に映る像の位置をもとに、身長と全身を映せる鏡の長さの関係性を見いだす〉	【探究活動】 「全身を映せる鏡の長さを調べる」	規 準	・全身を映せる鏡の長さについて、反射の法則をもとに説明している。 ・全身が映せる鏡の長さを調べる技能や、全身が鏡に映るときの光の道筋を作図する技能を身に付けている。	★全身を映せる鏡の長さについて、問題を発見して課題を設定し、全身を映せる鏡の長さを調べる実験を見通しをもって立案して行い、鏡の大きさを見いだして表現している。	・全身を映せる鏡の長さに関する事物・事象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりして、習得した知識及び技能を活用しながら課題を解決しようとしている。
			方 法	行動観察、ワークシート、レポート、ペーパーテスト	ワークシート、レポート、発表、ペーパーテスト	行動観察、ワークシート、レポート
			A 基 準	・全身を映せる鏡の長さについて、反射の法則をもとに作図し説明している。 ・課題を理解し、全身を映せる鏡の長さを適切な方法で調べ、全身が鏡に映るときの光の道筋を正しく作図している。	・全身を映せる鏡の長さについて、自ら問題を発見して課題を設定し、既習事項を振り返って予想を立て、見通しをもって実験を立案して行い、身長と全身を映せる鏡の長さの関係性を見いだし、根拠を示しながら適切に表現している。	・全身を映せる鏡の長さについて、自ら課題を設定し、見通しをもって進んで実験を立案して行い、習得した知識や技能を活用して、振り返ったりしながら主体的に課題を解決しようとしている。
			B 基 準	・全身を映せる鏡の長さについて、示された作図をもとに説明している。 ・全身が映せる鏡の長さを調べ、全身が鏡に映るときの光の道筋を作図している。	・全身を映せる鏡の長さについて、問題を発見して予想を立て、実験を立案して行い、全身を映せる鏡の長さを見いだして表現している。	・全身を映せる鏡の長さについて、設定した課題に沿って実験を立案して行い、習得した知識や技能を活用して課題を解決しようとしている。

方法…評価方法 A基準（十分満足できる。） B基準（おおむね満足できる。） 方★…重点評価項目 方…評価項目 A基準（十分満足できる。） B基準（おおむね満足できる。） ★…重点評価項目